



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

## — あいなん音故地新 —

有限

"条件の良い仕事の話がきたけど、本当にやりたいことじゃなかったからしばらく悩んだけど断った。受けとけばよかったかなと後悔しそうになったとき、金額は少し安いけど心からやりたい、と思える仕事の話がきた。今からその仕事をするのが楽しみ。はじめの仕事を受けてたらやりたい仕事はできなかった、毎日暗い気持ちで過ごしてたはず..."と、食事の席である人が話してくれた。ハッとさせられた。私たちの時間には限りがあって、心を配れる場所や人にも限りがある。たとえばポケットや椅子を持ってたとして、出会う物事すべてを入れることはできんし、出会う人と同じだけの数の椅子は持つとらん。気が進まんけどなんとなく、そうやって譲ったポケットや椅子に本当は入れたい他のものがあつたかもしれん。座ってほしい人がおつたかもしれん。選ぶ基準は人それぞれ。お金を優先する人もおれば、人柄を重視する人もおるやろう。それはそれでいい。なるべく自分のやりたいこと、楽しいと思えること、自分が大切に思えること、あなたを大切に思ってくれる人を選んで。決して簡単なことじゃないやろうけど、それでもできるだけそれを選んで。どうでもいいことに費やしてしまわんように。本当に大切なものがこぼれてしまわんように。 (テノヒラkiku)



本日！海日和！！ vol.145

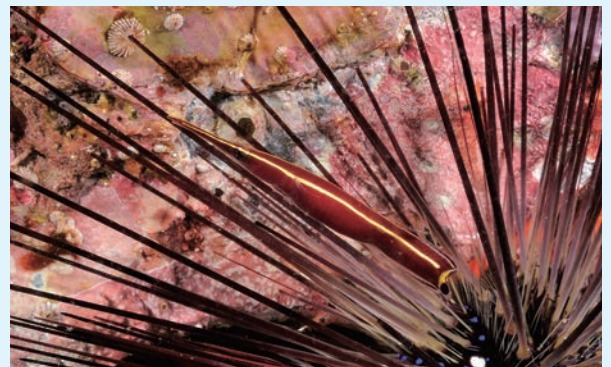


## 「ウニの針供養」

12月8日は、針供養の日だ。最近ではテレビニュースで話題になるくらいだが、旧暦の事納ことおさめの12月8日と、事始ことはじめの2月8日に行われる。

海の中で針を持った生き物と言えば、すぐにウニを思い浮かべるだろう。全身を鋭い針で覆い、毒を持つウニさえいる。ダイビング中に、うっかり触れてしまい、何度も痛い思いをした。写真のウニは、ガンガゼの仲間だが、針が折れやすく、刺されると体の中に針が残ってしまう。刺された時と、針を取り出す時の二度、痛い思いをしなければならぬので要注意だ。

そんなウニをちゃっかり利用しているのが、ハシナガウバウオである。5cmほどの小さな体で、ウニの近くをクネクネと泳ぎ回る。大きな魚が近



【ウニの針に守られるハシナガウバウオ】

づいたりして、危険を察知すると、針の中に逃げ込む。ウニの足(管足)も食べるらしく、ウニにとってはいい迷惑だろう。

私もウニの針供養をしっかりとって、オニヒトデやガンガゼに刺されることなく、安全なダイビングを楽しみたいものである。

(撮影地:カナガサキ)

愛南サンゴを守る会 西尾知照 ともてる